

資料編

○アンケート調査票

効果的・効率的な研究開発評価の実施に関するアンケート(評価者向け)

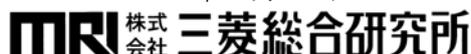
効果的・効率的な研究開発評価の実施に関するアンケート(研究者向け)

効果的・効率的な研究開発評価の実施に関するアンケート

(大学及び研究機関評価事務ご担当者向け)

効果的・効率的な研究開発評価の実施に関するアンケート (評価者向け)

2008年2月22日



《はじめに》

このたび、株式会社三菱総合研究所では、文部科学省の委託により、効果的・効率的な研究開発評価に関するアンケート調査を行うことになりました。

この調査票は、科学研究費補助金及び科学技術振興調整費に係る評価委員などにお送りしております。国の貴重な財源をもとに行われる研究開発の質を高め、その成果を国民に還元するために研究開発評価は重要な役割を担っているものの、評価対象がより複雑な対象に拡大し、法令に基づく評価への対応などにより、「評価疲れ」という声も一部で聞かれるところです。本調査分析では、効果的・効率的な研究開発評価を行うために、国内研究機関における実態の把握と先進事例の収集を行うことにより、研究機関においてより効果的・効率的な研究開発評価システムの構築と運用を実現することを目的としています。

《アンケートの回答方法》

本アンケートは、郵送または電子メール返送のいずれかで回答してください。

いずれの方法も 3月3日(月)までに回答ください。

【郵送によるご回答】

本調査票に直接記入の上、同封の返信用封筒にて返送ください。

【電子メールによるご回答】

本調査用ウェブサイト(<http://www.stu-mri.jp/rd3/>)から調査票ファイルをダウンロードして記入し、rd3@mri.co.jpまで返信ください。

【FAXによるご回答(締め切り直前の場合)】

締め切り直前の場合は、本調査票をFAXして頂いてもかまいません。

《回答頂いた情報の取り扱いについて》

ご回答頂いた内容につきましては、今回の調査目的に従って、統計的な分析を行うためのみに使用し、その他の目的で利用することはありません。分析でも組織・個人を特定して扱うことはございませんので、ご協力をお願い致します。なお、回答いただいた方には、まとめ次第、調査結果をフィードバックいたします。

《アンケートの目的や内容に関するお問い合わせ先》

株式会社三菱総合研究所 経営コンサルティング本部 担当: 吉村、北田、北里

お問い合わせ用メールアドレス rd3@mri.co.jp

本調査用ウェブサイト(FAQなど) <http://www.stu-mri.jp/rd3/>

電話 (03) 3277-0557 FAX (03) 3277-0584

ご記入された方の連絡先をご記入ください

【重要】

※ご役職、ご氏名、ご連絡先(電話)、ご連絡先(電子メール)につきましては、個人情報となりますので、次ページ「個人情報のお取り扱いについて」の説明文を読み、了解、承諾された上でご記入ください。アンケート内容の確認、結果のフィードバックのみに利用します。

＜ご記入欄＞

大学・独立行政 法人名			
ご所属(部署)			
ご役職*		ご氏名*	
ご連絡先(電話)*		ご連絡先 (電子メール)*	

個人情報のお取り扱いについて

本アンケートは、文部科学省より「効果的・効率的な研究開発評価及び研究者等個人の業績に関する評価の先進事例に関する調査・分析」の業務委託を受けて三菱総合研究所が実施するもので、科学研究費補助金の第一段審査レビューアから分野別に全体で 160 名無作為抽出、科学技術振興調整費審査委員及びワーキング委員から各分野別に全体で 40 名無作為してお送りしています。

ご回答者の個人情報のお取り扱いについては、下記のとおり適切に管理いたしますので、ご同意の上、アンケートにご回答下さい。

1. 個人情報の取扱いに関する 弊社の基本姿勢	三菱総合研究所は、2003 年 1 月 8 日にプライバシーマークの付与・認定を受けております。 ご回答者の個人情報は、弊社が定める「個人情報保護方針」に則り、適切な保護措置を講じ、厳重に管理いたします。
2. ご回答者の個人情報の利用 目的	ご回答者の個人情報は以下の目的のために利用させていただきます。下記以外の目的で個人情報を利用する場合は、改めて目的をお知らせし、同意を得るものといたします。 (1) アンケート内容の確認 (2) アンケート調査結果のフィードバック
3. ご回答者の個人情報の提供 提供：事業者が自ら保有する個人 情報を自社以外の者が利用できる ようにすることをいう。(委託 を除く)	個人情報の提供の予定はありません。
4. ご回答者の個人情報の委託 委託：事業者が利用目的達成に必 要な範囲内において、個人情報の 取扱いの全部又は一部を自社以 外の者に預けることをいう。	ご回答者の個人情報は、外部委託事業者に個人情報を取扱う業務を委託する予定があります。 その際、必要な契約を締結し、弊社の従業員に対するのと同等の管理を行います。
5. ご回答者の個人情報の利用 終了後の措置(個人情報の保 管期間)	当該業務終了後は、三菱総合研究所が責任をもって廃棄いたします。
6. ご回答者が個人情報を弊社 に与えることの任意性及び当該 情報を与えなかった場合にご回 答者に生じる結果について	・お名前・ご連絡先をご記入いただいた場合、後日、アンケート回答内容について、ご質問させていただくことがございます。 ・お名前・ご連絡先を記入いただいた方には、アンケートの集計結果についてお知らせする場合があります。 ・ご回答された方が、個人名の記載を希望されない場合には、個人名の部分につきまして空欄でも構いません。その場合、アンケートの集計結果についてお知らせすることはできません。
7. 個人情報に関するご連絡先	(1) 個人情報保護管理者 株式会社三菱総合研究所 常務執行役員 渡井康之 (連絡先: 03-3270-9211、E-mail: privacy@mri.co.jp) (2) 苦情・相談窓口: 経営企画部 広報グループ 電話: 03-3277-4515 FAX: 03-3277-3490 E-mail: prd@mri.co.jp URL: http://www.mri.co.jp/kojin/

- ◆ 弊社の「個人情報保護方針」「個人情報のお取り扱いについて」をご覧になりたい方は <http://www.mri.co.jp/TOP/privacy.html> をご覧下さい。
又、ご請求いただければお送り致します。

お問い合わせ番号: P017002-002-c

問1 研究開発評価の実施経験

問1-1 研究プロジェクト(研究課題)の評価について、ご自身が過去3年間(2005年度～2007年度)に評価者を務めたご経験のあるものを、下記の資金源の種類別に、事前・中間・事後・追跡の担当された評価ステージに○をつけてください。

§ 回答者ご自身が何らかの評価対応作業を行ったものに限定してください。

§ 当該期間以前に実施・終了したプロジェクトの評価を、当該期間に実施した場合も含まれます。

研究開発プロジェクト等の 資金源の種類	評価を担当された評価ステージ**				
	事前 評価	中間 評価	事後 評価	追跡 評価	ステージはわからない が担当した事はある
科学研究費補助金	1	2	3	4	5
科学技術振興調整費	1	2	3	4	5
その他の 文部科学省関係資金	1	2	3	4	5
NEDO*の資金	1	2	3	4	5
その他の 経済産業省関係資金	1	2	3	4	5
厚生労働省関係資金	1	2	3	4	5
農林水産省関係資金	1	2	3	4	5
その他上記以外の資金	1	2	3	4	5

※ NEDO: 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

※※ 事前: プロジェクトの選定のための評価

中間: 期間が長いプロジェクトにおいてプロジェクトの途中で行う評価で、プロジェクトの実施方法の変更等に用いる。

事後: プロジェクトの終了時に実施する評価。

追跡: プロジェクト終了数年後に実施する、研究成果の効果等を評価する評価。

問1-2 過去3年間でご自身が評価者を務めた研究開発評価の回数プロジェクト評価、施策・プログラム評価、機関・組織の評価ごとに下記の表の該当欄におおよその数字でお答えください。

	事前	中間	事後	追跡***
プロジェクト(課題)評価				
施策・プログラム評価*				
大学・研究機関等の外部評価・第三者評価				

※研究開発の推進・支援に係り政府が実施する政策や施策の評価、競争的研究資金制度の制度自体の評価、複数の研究プロジェクトから構成される包括的な計画の評価などを指します。

問2 評価についての全体的な感想

問2-1 これまで評価者として研究開発評価に携わられて、研究開発評価が研究者や研究機関に対してどのような影響を与えるようになったと感じられましたか。以下から選んで○をつけてください。(複数回答可)

1. 評価が整備されることで、公平な競争的環境が形成されつつある。
2. 挑戦的な研究を奨励する環境が形成されつつある。
3. 研究成果を多数産出することが心がけられるようになった。
4. 一つ一つの研究成果の質が強く意識されるようになった。
5. 研究活動への社会からの理解・支援を得る努力が重要であるとの認識が研究者の間に増した。
6. 研究活動の成果を社会へ還元することの重要性の認識が研究者の間に増した。
7. 研究費の効率的な使用が意識されるようになった。
8. 研究者らが評価へ対応するために、必要以上の時間が割かれている。
9. 同一の研究活動に対して、重複した評価が行われている。
10. その他(具体的にご記入ください。:)

以下については、下記の文章をお読みいただきお答えください。

問 1-2で、

- プロジェクト(課題)評価、施策・プログラム評価の**両方を実施したことがある**と回答された場合は 問 3、問 4 を回答して、問 5 へ進んでください。
- プロジェクト(課題)評価のみを実施したことがある**と回答された場合は、問 3 を回答して、問 4 をとばし、問 5 へ進んでください。
- 施策・プログラム評価のみを実施したことがある**と回答された場合、問 3 をとばし、問 4 を回答して問 5 へ進んでください。

いずれも直近で担当された評価などを思い浮かべてお答えください。

問3 プロジェクト(課題)評価を経験されて得られた実感について

問3-1 評価方法はどのような方法を経験されましたか。(複数回答可)

	事前	中間	事後	追跡
1. メールでのレビューア	1	2	3	4
2. 評価パネル(委員会)等の委員	1	2	3	4
3. 評価事務局のヒアリングなどへの対応	1	2	3	4
4. その他	1	2	3	4

問3-2 評価者としてこれまでプロジェクト(課題)評価を担当されて、プロジェクト評価についてどのように感じになりましたか。項目ごとに、該当するものに○をつけてください。
直近で担当された評価などを思い浮かべてお答えください。

		そう思う	どちらかという とそう思う	どちらとも いえない	どちらかという とそう思わない	そう思 わない
(1)	評価基準はほぼどの評価も明確に設定されていた	1	2	3	4	5
(2)	評価の方法はほぼどの評価も明確に公表されていた	1	2	3	4	5
(3)	評価に対応することで研究計画の質が向上した	1	2	3	4	5
(4)	評価を実施することで研究者の研究意欲が増した	1	2	3	4	5
(5)	ほとんどの評価で評価項目が多すぎた	1	2	3	4	5
(6)	評価結果の活用方法が不透明で徒労感がある	1	2	3	4	5
(7)	評価のために被評価者が用意すべき資料が多すぎる	1	2	3	4	5
(8)	評価を受ける研究者や機関が評価に不慣れでとまどったケースが多かった	1	2	3	4	5
(9)	研究者の評価に係わる時間が多くなり研究者が研究に割く時間に影響があった	1	2	3	4	5
(10)	数量的な指標の評価重視のため、健全な研究活動が歪められている	1	2	3	4	5
(11)	その他	1	2	3	4	5

その他の具体的内容を下記にお書きください

問4 施策・プログラム評価について評価を担当された実感について

問4-1 評価方法はどのような方法を経験されましたか。(複数回答可)

	事前	中間	事後	追跡
1. メールでのレビューア	1	2	3	4
2. 評価パネル(委員会)等の委員	1	2	3	4
3. 評価事務局のヒアリングなどへの対応	1	2	3	4
4. その他	1	2	3	4

問4-2 評価者としてこれまで施策・プログラム評価を担当されて、施策・プログラム評価についてどのように感じになりましたか。項目ごとに、該当するものに○をつけてください。直近で担当された評価などを思い浮かべてお答えください。

		そう思う	どちらかという とそう思う	どちらとも いえない	どちらかという とそう思わない	そう思 わない
(1)	評価基準はほぼどの評価も明確に設定されていた	1	2	3	4	5
(2)	評価の方法はほぼどの評価も明確に公表されていた	1	2	3	4	5
(3)	評価に対応することで施策・プログラムの質が向上した	1	2	3	4	5
(4)	評価を実施することで施策・プログラムの実施者の意欲が増した	1	2	3	4	5
(5)	ほとんどの評価で評価項目が多すぎた	1	2	3	4	5
(6)	評価結果の活用方法が不透明で徒労感がある	1	2	3	4	5
(7)	評価のために被評価者が用意すべき資料が多すぎる	1	2	3	4	5
(8)	評価を受ける側が評価に不慣れでとまどったケースが多かった	1	2	3	4	5
(9)	被評価者の評価に係わる時間が多くなり業務に割く時間に影響があった	1	2	3	4	5
(10)	数量的な指標の評価重視のため、健全な研究活動が歪められている	1	2	3	4	5
(11)	その他	1	2	3	4	5

その他の具体的内容を下記にお書きください

問5 効果的・効率的な評価とするために改善すべき点について

問5-1 ご自身が過去 3 年間に評価を担当された実際の経験から、どのような点を改善すべきと感じられていますか。特にプロジェクト評価について担当されたご経験からお答えください。また、プロジェクト評価についてのご経験がなく、施策・プログラム評価のみのご経験のある方は、下記の表のプロジェクト・課題評価を施策・プログラム評価と捉えてお答えください。評価者の立場だけでなく、評価実施事務局の課題や被評価者に係わる課題など研究開発評価活動全般に係わる選択肢となっておりますので、お分かりになる範囲で、該当するものがありましたら、お選びください。

	事前評価 (プロジェクト 課題)	中間・事後 評価 (プロジェクト 課題)
研究者の意欲や挑戦も積極的に評価することが必要	1	1
数量的指標の活用の使用目的等を評価対象者に明示し、慎重に使用することが必要	2	2
プロジェクトの大きさやプロジェクトの到達点(基礎研究なのか、製品化まで目指しているかなど)、プロジェクトの分野などに応じた柔軟な評価(評価項目や基準の設定)が必要	3	3
IT システム活用による簡便な評価システムの構築が必要	4	4
評価に必要なデータをあらかじめ取得・蓄積しデータベース化することが必要	5	5
評価を行う評価者の充実が必要	6	6
評価者が評価へ参画するメリットを打ち出すことが必要	7	7
専門の外部評価者や評価機関を活用することが必要	8	8
重複する目的や対象の評価を整理し、また連携を行うことが必要	9	9
評価結果の活用を促進し、活用状況をフィードバックすることが必要	10	10
資金配分機関などにおいて、評価実務を行う人材の確保が必要	11	11
資金配分機関などで評価に先立つ調査分析や調査方法の開発など、評価支援ツールを整備することが必要	12	12
より充実した評価の実施に要する経費の増加が必要	13	13
国の制度などが改善されることが必要(下表に具体的に)	14	14
その他(下表に具体的に)	15	15

その他の具体的内容を下記にお書きください

国の制度など	
その他	

問6 効果的・効率的な研究開発評価の実施例について

問6-1 効率的・効果的な研究開発評価を実施していると思われる事例がございましたら、お答えください。下記の項目より該当するものがありましたらお選びいただき、具体的な内容についてもご記入ください。(複数回答可)

またそのような内容がわかるパンフレット、ネットのホームページアドレスなどを下記にお教えいただくことでも結構です。

1. 評価を実施するための人材の確保
2. 評価のための調査方法、分析方法の開発
3. ITシステムなどの開発
4. 予算の増加策
5. 評価に必要なデータのデータベース化
6. 評価結果の詳細なフィードバック
7. 評価結果の活用
8. 評価結果の公開
9. 評価者へのメリット
10. その他

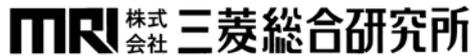
具体的内容

--

ご協力大変ありがとうございました。

効果的・効率的な研究開発評価の実施に関するアンケート (研究者向け)

2008年2月25日



《はじめに》

このたび、株式会社三菱総合研究所では、文部科学省の委託により、効果的・効率的な研究開発評価[※]に関するアンケート調査を行うことになりました。

この調査票は、科学研究費補助金を受けられた研究開発プロジェクトの研究代表者等にお送りしております。国の貴重な財源をもとに行われる研究・開発の質を高め、その成果を国民に還元するために評価は重要な役割を担っているものの、評価対象がより複雑な対象に拡大し、法令に基づく評価への対応などにより、「評価疲れ」という声も一部で聞かれるところですが。本調査分析では、効果的・効率的な研究開発評価を行うために、研究開発プロジェクト評価の実態把握と先進事例の収集を行うことにより、研究機関においてより効果的・効率的な研究開発評価システムの構築と運用を実現することを目的としています。

※今回お送りした方の中には、「研究は行っているが開発までは携わっていない」とされる方もおいでになるかと思われますが、今回のアンケートでは、研究及び研究開発に関する評価全体を捉えて「研究開発評価」と呼ぶことにしております。

《アンケートの回答方法》

本アンケートは、郵送または電子メール返送のいずれかで回答してください。

いずれの方法も **3月10日(月)**までに回答ください。

【郵送によるご回答】

本調査票に直接記入の上、同封の返信用封筒にて返送ください。

【電子メールによるご回答】

本調査用ウェブサイト(<http://www.stu-mri.jp/rd3/>)から調査票ファイルをダウンロードして記入し、rd3@mri.co.jpまで返信ください。

【FAXによるご回答(締め切り直前の場合)】

締め切り直前の場合は、本調査票をFAXして頂いてもかまいません。

《回答頂いた情報の取り扱いについて》

ご回答頂いた内容につきましては、今回の調査目的に従って、統計的な分析を行うためのみに使用し、その他の目的で利用することはありません。分析でも組織・個人を特定して扱うことはありませんので、ご協力をお願い致します。なお、回答いただいた方には、まとめ次第、調査結果をフィードバックいたします。

《アンケートの目的や内容に関するお問い合わせ先》

株式会社三菱総合研究所 経営コンサルティング本部 担当: 吉村、北田、北里

お問い合わせ用メールアドレス rd3@mri.co.jp

本調査用ウェブサイト(FAQなど) <http://www.stu-mri.jp/rd3/>

電話 (03) 3277-0557 FAX (03) 3277-0545

ご記入された方の連絡先をご記入ください

【重要】

※ご役職、ご氏名、ご連絡先(電話)、ご連絡先(電子メール)につきましては、個人情報となりますので、次ページ「個人情報のお取り扱いについて」の説明文を読み、了解、承諾された上でご記入ください。アンケート内容の確認、結果のフィードバックのみに利用します。

＜ご記入欄＞

大学・独立行政 法人名			
ご所属(部署)			
ご役職 [※]		ご氏名 [※]	
ご連絡先(電話) [※]		ご連絡先 (電子メール) [※]	

個人情報のお取り扱いについて

本アンケートは、文部科学省より「効果的・効率的な研究開発評価及び研究者等個人の業績に関する評価の先進事例に関する調査・分析」の業務委託を受けて三菱総合研究所が実施するものです。

ご回答者の個人情報のお取り扱いについては、下記のとおり適切に管理いたしますので、ご同意の上、アンケートにご回答下さい。

1. 個人情報の取扱いに関する 弊社の基本姿勢	三菱総合研究所は、2003年1月8日にプライバシーマークの付与・認定を受けております。 ご回答者の個人情報は、弊社が定める「個人情報保護方針」に則り、適切な保護措置を講じ、厳重に管理いたします。
2. ご回答者の個人情報の利用 目的	ご回答者の個人情報は以下の目的のために利用させていただきます。下記以外の目的で個人情報を利用する場合は、改めて目的をお知らせし、同意を得るものといたします。 (1) アンケート内容の確認 (2) アンケート調査結果のフィードバック
3. ご回答者の個人情報の提供 提供: 事業者が自ら保有する個人 情報を自社以外の者が利用できる ようにすることをいう。(委託 を除く)	個人情報の提供の予定はありません。
4. ご回答者の個人情報の委託 委託: 事業者が利用目的達成に必 要な範囲内において、個人情報の 取扱いの全部又は一部を自社以 外の者に預けることをいう。	ご回答者の個人情報は、外部委託事業者に個人情報を取扱う業務を委託する予定があります。 その際、必要な契約を締結し、弊社の従業員に対するのと同等の管理を行います。
5. ご回答者の個人情報の利用 終了後の措置(個人情報の保 管期間)	当該業務終了後は、三菱総合研究所が責任をもって廃棄いたします。
6. ご回答者が個人情報を弊社 に与えることの任意性及び当該 情報を与えなかった場合にご 回答者に生じる結果について	・お名前・ご連絡先をご記入いただいた場合、後日、アンケート回答内容について、ご質問させていただくことがございます。 ・お名前・ご連絡先を記入いただいた方には、アンケートの集計結果についてお知らせする場合があります。 ・ご回答された方が、個人名の記載を希望されない場合には、個人名の部分につきましては空欄でも構いません。その場合、アンケートの集計結果についてお知らせすることはできません。
7. 個人情報に関するご連絡先	(1) 個人情報保護管理者 株式会社三菱総合研究所 常務執行役員 渡井康之 (連絡先: 03-3270-9211、E-mail: privacy@mri.co.jp) (2) 苦情・相談窓口: 経営企画部 広報グループ 電話: 03-3277-4515 FAX: 03-3277-3490 E-mail: prd@mri.co.jp URL: http://www.mri.co.jp/kojin/

◆ 弊社の「個人情報保護方針」「個人情報のお取り扱いについて」をご覧になりたい方は
<http://www.mri.co.jp/TOP/privacy.html>をご覧ください。
又、ご請求いただければお送り致します。

お問合せ番号: P017002-002-c

問1 研究開発評価の実施状況について

- 問1-1 ご自身が過去3年間(2005年度～2007年度)に実施した研究プロジェクト(研究課題)の数、および、そのうちでリーダーであった数を、資金源の種類別に数字で記入してください。また、過去3年間に事前・中間・事後・追跡の各評価を受けた数を書いてください。
 § 回答者ご自身が何らかの評価対応作業を行ったものに限定してください。
 § 当該期間以前に実施・終了したプロジェクトの評価を、当該期間に実施した数も含めて記入ください。

研究開発プロジェクトの 資金源の種類	3年間の 実施プロジェクト数 (内リーダーをつとめられた数)	評価を受けた回数**			
		事前 評価	中間 評価	事後 評価	追跡 評価
(例)	5 (3)	4	2	2	0
科学研究費補助金	()				
科学技術振興調整費	()				
その他の 文部科学省関係資金	()				
NEDO*の資金	()				
その他の 経済産業省関係資金	()				
厚生労働省関係資金	()				
農林水産省関係資金	()				
その他上記以外の資金	()				

※ NEDO: 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

※※ 事前: プロジェクトの選定のための評価

中間: 期間が長いプロジェクトにおいてプロジェクトの途中で行う評価で、プロジェクトの実施方法の変更等に用いる。

事後: プロジェクトの終了時に実施する評価。

追跡: プロジェクト終了数年後に実施する、研究成果の効果等を評価する評価。

- 問1-2 過去に研究開発評価の評価者としてのご経験はございますか。以下から選んで○をつけてください。(複数回答可)

1. 研究開発プロジェクトの選定に当たってのレビューアー
2. 研究開発プロジェクトの事前評価の評価パネル(委員会)のメンバー
3. 研究開発プロジェクトの中間評価の評価パネル(委員会)のメンバー
4. 研究開発プロジェクトの事後評価の評価パネル(委員会)のメンバー
5. 研究開発プロジェクトの追跡評価の評価パネル(委員会)のメンバー
6. 機関評価*の評価委員会の評価パネル(委員会)のメンバー
7. その他(具体的にお書きいただけるのであればお書きください)
()

※「機関評価」とは研究機関の体制、マネジメント、研究内容などに関する評価をさし、研究機関外部から評価を受ける場合と、研究機関内部で評価を行う場合がある。

問2 研究開発にかかわる評価への対応時間

問2-1 あなたは昨年度、研究開発にかかわる評価への対応に、どの程度の割合を勤務時間内に費やしましたか。おおよそでかまいませんので、もっとも近いものをそれぞれ選んでください。
 ※評価の対応に従事している時間とは、評価に関する資料作成、評価のための事務作業、評価委員会などへの出席などがあります。なお、評価者として費やされた時間は除いてください。

		研究開発にかかわる評価への対応時間					
		0(なし)	1%未満	1～5%	5～10%	10～20%	20%以上
(1)	研究プロジェクト(課題)の評価	1	2	3	4	5	6 (%程度)
(2)	機関内の教員・研究者の評価	1	2	3	4	5	6 (%程度)
(3)	組織・機関を単位とする評価	1	2	3	4	5	6 (%程度)
(4)	その他	1	2	3	4	5	6 (%程度)

問3 研究開発にかかわる評価についての全体的印象

問3-1 ご自身が過去 3 年間に様々な評価に対応されて、どのように感じられましたか。以下から選んで○をつけてください。(複数回答可)

1. 評価が整備されることで、公平な競争的環境が形成されつつある。
2. 挑戦的な研究を奨励する環境が形成されつつある。
3. 研究成果を多数産出することを心がけるようになった。
4. 一つ一つの研究成果の質を強く意識するようになった。
5. 研究活動への社会からの理解・支援を得る努力が重要であるとの認識が増した。
6. 研究活動の成果を社会へ還元することの重要性の認識が増した。
7. 研究費の効率的な使用を意識するようになった。
8. 評価への対応に必要以上の時間がとられている。
9. 同一の研究活動に対して、重複した評価が行われている。
10. その他(具体的にご記入ください。:)

問4 個別の研究開発評価に対応された実感について

以下の設問には、回答者ご自身が過去3年間に携われた研究開発プロジェクトのうちで、主体的に参画し、かつ、直近のプロジェクトから一つを選択してお答えください。

可能でしたら下記の欄に対象とするプロジェクトの資金制度をお答え下さい

対象とする資金制度
(たとえば「科研費基盤研究(A)」)

問4-1 上記のプロジェクト(以下、当該プロジェクト)において、事前評価(プロジェクトを選択する評価)、中間・事後評価は行われていましたか。

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 事前評価、中間・事後評価ともに行われていた | →問 4-2、問 4-3を回答して問 5 へ |
| 2. 事前評価のみ行われていた | →問 4-2のみ回答して問 5 へ |
| 3. 中間・事後評価のみ行われていた | →問 4-3のみ回答して問 5 へ |
| 4. いずれも行われていなかった | →問 5 へ |

問4-2 (問 4-1で 1.または 2.の場合)当該プロジェクトの事前評価に対応されてどのように感じましたか。それぞれあてはまるものに○をつけてください。

		そう思う	どちらかという とそう思う	どちらとも いえない	どちらかという とそう思 わない	そう思 わない
(1)	評価基準は明確に設定されていた	1	2	3	4	5
(2)	評価の方法は明確に公表されていた	1	2	3	4	5
(3)	評価に対応することでその後の研究の質が向上した	1	2	3	4	5
(4)	研究意欲が増した	1	2	3	4	5
(5)	評価項目が多すぎた	1	2	3	4	5
(6)	評価のために用意すべき資料が多すぎた	1	2	3	4	5
(7)	評価に不慣れでとまどった	1	2	3	4	5
(8)	研究や教育等の本務と兼務しているため業務量が増加した	1	2	3	4	5
(9)	評価に係わる事務作業が多かった	1	2	3	4	5
(10)	数量的な指標の評価重視のため、健全な研究活動が歪められた	1	2	3	4	5
(11)	評価に徒労感を感じた	1	2	3	4	5
(12)	その他(以下に具体的に)	1	2	3	4	5

その他の具体的内容を下記にお書きください

問4-3 (問 4-1で 1.または 3.の場合)当該プロジェクトの中間・事後評価に対応されて、どのように感じましたか。それぞれあてはまるものに○をつけてください。

		そう思う	どちらかという とそう思う	どちらとも いえない	どちらかという とそう思 わない	そう思 わない
(1)	評価を行う目的は明確であった	1	2	3	4	5
(2)	評価基準は明確に設定されていた	1	2	3	4	5
(3)	評価の方法は明確に公表されていた	1	2	3	4	5
(4)	評価に対応することでその後の研究の質が向上した	1	2	3	4	5
(5)	研究意欲が増した	1	2	3	4	5
(6)	評価項目が多すぎた	1	2	3	4	5
(7)	評価のために用意すべき資料が多すぎた	1	2	3	4	5
(8)	評価に不慣れでとまどった	1	2	3	4	5
(9)	研究や教育等の本務と兼務しているため業務量が増加した	1	2	3	4	5
(10)	評価に係わる事務作業が多かった	1	2	3	4	5
(11)	数量的な指標の評価重視のため、健全な研究活動が歪められた	1	2	3	4	5
(12)	評価に徒労感を感じた	1	2	3	4	5
(13)	その他(以下に具体的に)	1	2	3	4	5

その他の具体的内容を下記にお書きください

問5 効果的・効率的な評価とするために改善すべき点について

問5-1 ご自身が過去3年間に評価に対応された実際の経験から、どのような点を改善すべきと感じられていますか。

評価を受ける立場だけではなく、評価実施事務局の課題や評価者に係わる課題など研究開発評価活動全般に係わる選択肢となっておりますので、お分かりになる範囲で、該当するものがありましたら、お選びください。

	事前評価 (プロジェクト 課題)	中間・事後 評価 (プロジェクト 課題)
研究者の意欲や挑戦も積極的に評価することが必要	1	1
数量的指標の活用の使用目的等を評価対象者に明示し、慎重に使用することが必要	2	2
プロジェクトの大きさやプロジェクトの到達点(基礎研究なのか、製品開発まで目指しているかなど)、プロジェクトの分野などに応じた柔軟な評価(評価項目や基準の設定)が必要	3	3
ITシステム活用による簡便な評価システムの構築が必要	4	4
評価に必要なデータをあらかじめ取得・蓄積しデータベース化することが必要	5	5
評価を行う評価者の充実が必要	6	6
評価者が評価へ参画するメリットを打ち出すことが必要	7	7
専門の外部評価者や評価機関を活用することが必要	8	8
重複する目的や対象の評価を整理し、また連携を行うことが必要	9	9
評価結果の活用を促進し、活用状況をフィードバックすることが必要	10	10
資金配分機関などにおいて、評価実務を行う人材の確保が必要	11	11
資金配分機関などで評価に先立つ調査分析や調査方法の開発など、評価支援ツールを整備することが必要	12	12
より充実した評価の実施に要する経費の増加が必要	13	13
国の制度などが改善されることが必要(下表に具体的に)	14	14
その他(下表に具体的に)	15	15

改善すべき国の制度やその他の具体的内容を下記にお書きください

国の制度など	
その他	

問6 効果的・効率的な研究開発評価の実施例について

問6-1 効率的・効果的な研究開発評価を実施していると思われる事例がございましたら、お答えください。

下記の項目より該当するものがありましたらお選びいただき、具体的な内容について下記にご記入ください。(複数回答可)

またそのような内容がわかるパンフレット、ネットのホームページアドレスなどを下記にお教えいただくことでも結構です。

1. 評価を実施するための人材の確保
2. 評価のための調査方法、分析方法の開発
3. IT システムなどの開発
4. 予算の増加策
5. 評価に必要なデータのデータベース化
6. 評価結果の詳細なフィードバック
7. 評価結果の活用
8. 評価結果の公開
9. 評価者へのメリット
10. その他

具体的内容

ご協力大変ありがとうございました。

効果的・効率的な研究開発評価の実施に関するアンケート (大学及び研究機関評価事務ご担当者向け)

2008年2月25日

MRI 株式会社 **三菱総合研究所**

《はじめに》

このたび、株式会社三菱総合研究所では、文部科学省の委託により、効果的・効率的な研究開発評価に関するアンケート調査を行うことになりました。

この調査票は、科学研究費補助金の配分額が多い大学及び研究機関の評価事務局などにお送りしております。国の貴重な財源をもとに行われる研究開発の質を高め、その成果を国民に還元するために研究開発評価は重要な役割を担っているものの、評価対象がより複雑な対象に拡大し、法令に基づく評価への対応などにより、「評価疲れ」という声も一部で聞かれるところですが、本調査分析では、効果的・効率的な研究開発評価を行うために、国内研究機関における特に機関評価の実態把握と先進事例の収集を行うことにより、研究機関においてより効率的・効果的な研究開発評価システムの構築と運用を実現することを目的としています。

《アンケートの回答方法》

本アンケートは、郵送または電子メール返送のいずれかで回答してください。

いずれの方法も **3月10日(月)**までに回答ください。

【郵送によるご回答】

本調査票に直接記入の上、同封の返信用封筒にて返送ください。

【電子メールによるご回答】

本調査用ウェブサイト(<http://www.stu-mri.jp/rd3/>)から調査票ファイルをダウンロードして記入し、rd3@mri.co.jpまで返信ください。

【FAXによるご回答(締め切り直前の場合)】

締め切り直前の場合は、本調査票をFAXして頂いてもかまいません。

《回答頂いた情報の取り扱いについて》

ご回答頂いた内容につきましては、今回の調査目的に従って、統計的な分析、アンケートに引き続いて行われる先進事例についてのインタビュー依頼(依頼した場合でも、ご協力は任意です)のみに使用し、**今回の調査目的以外の目的で利用することはありません。**大学・研究機関が特定できる形で公開されることは**ございません**ので、ご協力をお願い致します。なお、回答いただいた大学・研究機関には、まとも次第、調査結果をフィードバックいたします。

《アンケートの目的や内容に関するお問い合わせ先》

株式会社三菱総合研究所 経営コンサルティング本部 担当:吉村、北田、北里

お問い合わせ用メールアドレス rd3@mri.co.jp

本調査用ウェブサイト(FAQなど) <http://www.stu-mri.jp/rd3/>

電話 (03)3277-0557 FAX (03)3277-0545

ご記入された方の連絡先をご記入ください

【重要】

※ご役職、ご氏名、ご連絡先(電話)、ご連絡先(電子メール)につきましては、個人情報となりますので、次ページ「個人情報のお取り扱いについて」の説明文を読み、了解、承諾された上でご記入ください。アンケート内容の確認、結果のフィードバック、インタビュー調査の依頼(任意)のみに利用します

＜ご記入欄＞

大学・独立行政 法人名			
ご所属(部署)			
ご役職*		ご氏名*	
ご連絡先(電話)*		ご連絡先 (電子メール)*	

個人情報のお取り扱いについて

本アンケートは、文部科学省より「効果的・効率的な研究開発評価及び研究者等個人の業績に関する評価の先進事例に関する調査・分析」の業務委託を受けて三菱総合研究所が実施するもので、我が国の平成 18 年度科学研究費補助金の額の多い大学および独立行政法人をそれぞれ 70 校、30 団体にお送りしています。

ご回答者の個人情報のお取り扱いについては、下記のとおり適切に管理いたしますので、ご同意の上、アンケートにご回答下さい。

1. 個人情報の取扱いに関する 弊社の基本姿勢	三菱総合研究所は、2003 年 1 月 8 日にプライバシーマークの付与・認定を受けております。 ご回答者の個人情報は、弊社が定める「個人情報保護方針」に則り、適切な保護措置を講じ、厳重に管理いたします。
2. ご回答者の個人情報の利用 目的	ご回答者の個人情報は以下の目的のために利用させていただきます。下記以外の目的で個人情報を利用する場合は、改めて目的をお知らせし、同意を得るものといたします。 (1) アンケート内容の確認 (2) アンケート調査結果のフィードバック (3) インタビュー調査のご協力依頼(任意)
3. ご回答者の個人情報の提供 提供：事業者が自ら保有する個人 情報を自社以外の者が利用できる ようにすることをいう。(委託 を除く)	個人情報の提供の予定はありません。
4. ご回答者の個人情報の委託 委託：事業者が利用目的達成に必 要な範囲内において、個人情報の 取扱いの全部又は一部を自社以 外の者に預けることをいう。	ご回答者の個人情報は、外部委託事業者に個人情報を取扱う業務を委託する予定があります。 その際、必要な契約を締結し、弊社の従業員に対するのと同等の管理を行います。
5. ご回答者の個人情報の利用 終了後の措置(個人情報の保 管期間)	当該業務終了後は、三菱総合研究所が責任をもって廃棄いたします。
6. ご回答者が個人情報を弊社 に与えることの任意性及び当該 情報を与えなかった場合にご回 答者に生じる結果について	・お名前・ご連絡先をご記入いただいた場合、後日、アンケート回答内容について、ご質問させていただくことがございます。 ・お名前・ご連絡先を記入いただいた方には、アンケートの集計結果についてお知らせする場合があります。 ・ご回答された方が、個人名の記載を希望されない場合には、個人名の部分につきましては空欄でも構いません。その場合、アンケートの集計結果についてお知らせすることはできません。
7. 個人情報に関するご連絡先	(1) 個人情報保護管理者 株式会社三菱総合研究所 常務執行役員 渡井康之 (連絡先: 03-3270-9211、E-mail: privacy@mri.co.jp) (2) 苦情・相談窓口: 経営企画部 広報グループ 電話: 03-3277-4515 FAX: 03-3277-3490 E-mail: prd@mri.co.jp URL: http://www.mri.co.jp/kojin/

- ◆ 弊社の「個人情報保護方針」「個人情報のお取り扱いについて」をご覧になりたい方は
<http://www.mri.co.jp/TOP/privacy.html> をご覧下さい。
 又、ご請求いただければお送り致します。

お問合せ番号: P017002-002-c

本アンケートでは、大学や研究開発機関が法人評価や大学認証評価など第三者から受ける評価、ならびに、大学・機関が組織内で実施している機関自身に関する評価などを対象としています。研究者(教員)個人の評価や研究プロジェクト(課題)の評価、教育評価は対象としません。

問1 研究開発評価(機関評価)の実施状況について

問1-1 貴大学・研究機関で、過去4年間に実施した機関評価等について該当するものに○を付けてください。また、なかでも「大綱的指針ならびに各府省の指針の内容を強く意識して評価を実施しているもの」については◎をつけてください。

※「実施している」とは、当該評価を第三者から受けている、あるいは自らが自らを評価していることを意味します。

※すでに評価を実施したもの、評価を実施するための作業を開始しているものを含めてください。評価を実施する予定になっており、作業を開始していないものは含めないでください。

<大学>

分類	機関評価の種別
第三者評価 (自大学以外の第三者によって実施される評価)	1. 認証評価(機関別) 2. 認証評価(専門職大学院) 3. 国立大学法人評価・公立大学法人評価 4. JABEEによる技術者教育プログラムの評価 5. その他()
内部評価 (自己評価や、自らが外部評価者を委嘱して行う外部評価など)	6. 大学単位の自己点検・評価(外部評価者なし) [§] 7. 部局単位の自己点検・評価(外部評価者なし) [§] 8. 大学単位の外部評価 [§] 9. 部局単位の外部評価 [§] 10. 部局を対象に、大学本部が実施する評価 11. その他()

§一部の部局・部門が行っているものでも、おわかりになる範囲で○もしくは◎をつけてください。

§「外部評価」とは自機関自らが、評価項目を定め、評価者を選定して実施する評価を指します。

<独立行政法人などの研究機関>

分類	機関評価の種別
第三者評価 (自法人以外の第三者によって実施される評価)	1. 独立行政法人評価 2. その他()
内部評価 (自己評価や、自らが外部評価者を委嘱して行う外部評価など)	3. 法人単位の自己評価(外部評価者なし) [§] 4. 研究所・研究ユニット等単位の自己評価(外部評価者なし) [§] 5. 法人単位の外部評価 6. 研究所・研究ユニット等単位の外部評価 [§] 7. 研究所・研究ユニットを対象に、法人自らが実施する評価 [§] 8. その他()

§一部の部局・部門が行っているものでも、おわかりになる範囲で○もしくは◎をつけてください。

§「外部評価」とは自機関自らが、評価項目を定め、評価者を選定して実施する評価を指します。

以降、「第三者評価」、「内部評価」に分けて、研究活動を評価対象に含む評価についておたずねします(教育活動のみの評価は本アンケートの対象とはしません)。

上記で、

「第三者評価」に分類されるもの、「内部評価」に分類されるものの両方で、研究活動を対象に含む評価に○もしくは◎をつけた方は、問2、問3の両方を回答して、問4へ進んで下さい。

「第三者評価」のみで、研究活動を対象に含む評価に○もしくは◎をつけた方は、問2を回答して、問4へ進んで下さい。

「内部評価」のみで、研究活動を対象に含む評価に○もしくは◎をつけた方は、問3を回答して、問4へ進んで下さい。

「第三者評価」に分類されるもの、「内部評価」に分類されるもののいずれにおいても、研究活動を対象に含む評価を実施していない場合は、問4へ進んで下さい。

問2 第三者評価について

(問1-1で「第三者評価」のいずれかを選んだ場合に回答下さい)

問2-1 第三者評価が大学・研究機関に及ぼす影響について、全体としてどのように感じられましたか。以下から選んで○をつけてください。(複数回答可)

1. 評価が整備されることで研究活動が活発になった
2. 挑戦的な研究を奨励する環境が形成されつつある
3. 機関全体の研究の質が向上した
4. 機関全体の研究者の活動が活発化した
5. 機関全体で研究活動に関して PDCA サイクル(計画→実施→評価→改善)が回るようになった
6. 適切な予算の配分が行われるようになった
7. 機関全体の研究の継続性、関係性が増し効果的な研究活動が行われるようになった
8. 機関が社会的な責任を認識するようになった
9. 機関全体の研究活動が評価のために低調になった
10. 研究がリスクを回避するような傾向になった
11. 評価によって研究者の意欲が低下した
12. 評価によって研究者が疲れている
13. その他(以下に具体的に)

その他については下記に具体的にお書きください。

--

以下はこれまで3年以内に実施された第三者評価で最も印象に残っている評価を思い浮かべてお答えください。

具体的な対象が思い浮かばない場合でも、問2-3の設問はお答えいただける範囲で結構ですのでお答えください。

問2-2 お答えの対象とする第三者評価に○をつけてください。

組織	機関評価の種別
大学	1. 認証評価(機関別) 2. 国立大学法人評価・公立大学法人評価 3. その他()
独立行政法人	4. 独立行政法人評価 5. その他()

問2-3 問 2-2で対象とした評価について、どのように感じましたか。項目ごとに、該当すると思われる回答に○をつけてください。

		そう思う	どちらかという とそう思う	どちらとも いえない	どちらかという とそう思 わない	そう思 わない
(1)	評価基準は明確に設定されていた	1	2	3	4	5
(2)	評価の方法は明確に公表されていた	1	2	3	4	5
(3)	評価に対応することで、機関全体の研究活動に関わる計画の質が向上した	1	2	3	4	5
(4)	機関の研究者の研究意欲が増した	1	2	3	4	5
(5)	評価項目が多すぎた	1	2	3	4	5
(6)	評価結果の活用方法が不透明で徒労感がある	1	2	3	4	5
(7)	評価に不慣れでとまどった	1	2	3	4	5
(8)	研究や教育等の本務に加えて業務量が増加した	1	2	3	4	5
(9)	数量的な指標の評価の重視のため、健全な研究活動が歪められた	1	2	3	4	5
(10)	その他(以下に具体的に)	1	2	3	4	5

その他の具体的内容を下記にお書きください

問3 内部評価について

(問 1-1で「内部評価」のいずれかを選んだ場合に回答下さい)

問3-1 内部評価が研究機関に及ぼす影響について、全体としてどのように感じられましたか。以下から選んで○をつけてください。(複数回答可)

1. 評価が整備されることで研究活動が活発になった
2. 挑戦的な研究を奨励する環境が形成されつつある
3. 機関全体の研究の質が向上した
4. 機関全体の研究者の活動が活発化した
5. 機関全体で研究活動に関してPDCAサイクル(計画→実施→評価→改善)が回るようになった
6. 適切な予算の配分が行われるようになった
7. 機関全体の研究の継続性、関係性が増し効果的な研究活動が行われるようになった
8. 機関が社会的な責任を認識するようになった
9. 機関全体の研究活動が評価のために低調になった
10. 研究がリスクを回避するような傾向になった
11. 評価によって研究者の意欲が低下した
12. 評価によって研究者が疲れている
13. その他(以下に具体的に)

その他については下記に具体的にお書きください。

以下はこれまで 3 年以内に実施された内部評価で最も印象に残っている評価を思い浮かべてお答えください。

具体的な対象が思い浮かばない場合でも、問 3-2の設問はお答えいただける範囲で結構ですでお答えください。

問3-2 お答えの対象とする内部評価に○をつけてください。

組織	機関評価の種別
大学	1.大学単位の自己点検・評価(外部評価者なし) 2.部局単位の自己点検・評価(外部評価者なし) 3.大学単位の外部評価 4.部局単位の外部評価 5.部局を対象に、大学本部が実施する評価 6.その他()
独立行政法人	7. 法人単位の自己評価(外部評価者なし) 8. 研究所・研究ユニット等単位の自己評価(外部評価者なし) 9. 法人単位の外部評価 10. 研究所・研究ユニット等単位の外部評価 [§] 11. 研究所・研究ユニットを対象に、法人自らが実施する評価 12. その他()

問3-3 問 3-2で対象とした評価について、どのように感じましたか。項目ごとに、該当すると思われる回答に○をつけてください。

		そう思う	どちらかという とそう思う	どちらとも いえない	どちらかという とそう思わない	そう思わない
(1)	評価基準は明確に設定されていた	1	2	3	4	5
(2)	評価の方法は明確に公表されていた	1	2	3	4	5
(3)	評価に対応することで、評価対象の研究活動に関わる計画の質が向上した	1	2	3	4	5
(4)	機関の研究者の研究意欲が増した	1	2	3	4	5
(5)	評価項目が多すぎた	1	2	3	4	5
(6)	評価結果の活用方法が不透明で徒労感がある	1	2	3	4	5
(7)	評価に不慣れでとまどった	1	2	3	4	5
(8)	研究や教育等の本務と兼務しているため業務量が増加した	1	2	3	4	5
(9)	数量的な指標の評価の重視のため、健全な研究活動が歪められた	1	2	3	4	5
(10)	その他	1	2	3	4	5

その他の具体的内容を下記にお書きください

問4 効果的・効率的な評価とするために改善すべき点について

問4-1 機関評価において改善すべき点について、あてはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

本設問の回答に当たっては、問2、問3で対象とした具体的な機関評価ではなく、これまでのご経験全体から必要性を感じている項目をお選びください。

1. 研究者の意欲や挑戦も機関評価においても積極的に評価することが必要
2. 数量的指標の活用についても、慎重にはあるが取り入れることが必要
3. ITシステム活用による簡便な評価システムの構築が必要
4. 機関評価に必要なデータをあらかじめ取得・蓄積しデータベース化することが必要
5. 評価を行う評価者の量的充実が必要
6. 評価を行う評価者の質的充実が必要
7. 機関内の評価を行う事務局人材の充実が必要
8. 専門の外部評価者や評価機関を活用することが必要
9. 評価結果の活用を促進し、必ず機関の改善に結び付けていく仕組み(組織、システム)が必要
10. 機関評価の評価項目や評価基準の更なる検討が必要
11. より充実した評価の実施に要する経費の増加が必要
12. 国の制度などが改善されることが必要(下表に具体的)
13. その他(下表に具体的に)

改善すべき国の制度やその他の具体的内容を下記にお書きください

国の制度など	
その他	

問4-2 問4-1の項目のうち第三者評価と自己評価のそれぞれで特に重視すべき項目がありましたらその番号を下記の欄にご記入ください。

例)	第三者評価	自己評価
1, 3, 11		

問4-3 機関評価に係わらず、研究開発評価が研究者や研究活動に対する影響についてどのように感じられていますか。(複数回答可)

1. 評価が整備されることで、公平な競争的環境が形成されつつある。
2. 挑戦的な研究を奨励する環境が形成されつつある。
3. 研究成果を多数産出することを心がけるようになってきている。
4. 一つ一つの研究成果の質を強く意識するようになってきている。
5. 研究活動への社会からの理解・支援を得る努力が重要であるとの認識が増した。
6. 研究活動の成果を社会へ還元することの重要性の認識が増した。
7. 研究者が研究費の効率的な使用を意識するようになった。
8. 研究者が評価への対応に必要以上の時間がとられている。
9. 同一の研究活動に対して、重複した評価が行われていると感じる。
10. その他(具体的に: _____)

問5 効果的・効率的な機関評価の実施例について

問5-1 効率的・効果的な機関評価を実施していると思われる事例がございましたら、お答えください。下記の項目より該当するものがございましたらお選びいただき、具体的な内容についてご記入ください。

またそのような内容がわかるパンフレット、ネットのホームページアドレスなどを下記にお教えいただくことも結構です。また、他機関の評価事例で参考にした事例や特に取組みが進んでいる他機関の事例でご存知のものがございましたら、お教えください。

1. 評価を実施するための人材の確保
2. 評価のための調査方法、分析方法の開発
3. ITシステムなどの開発
4. 予算の増加策
5. 評価に必要なデータのデータベース化
6. 評価結果の詳細なフィードバック
7. 評価結果の活用
8. 評価結果の公開
9. 評価者へのメリット
10. その他

具体的内容

ご協力大変ありがとうございました。